

[課題図書及び活動] ※2期生・3期生合同実施

担当教員	林田 明	所属	理工学部環境システム学科
テーマ	人間と自然の関係を考える		
活動期間	<p><b>2021年10月～2022年2月</b></p> <p>10月2日(土) 概要説明(対面/Zoom) 課題図書を配付し、活動のねらいと計画を説明する。</p> <p>10月：課題図書1の通読</p> <p>11月6日(土)：第1回学習(Zoom) 講義、抽出課題の報告、グループワークの課題検討</p> <p>11月：課題図書2の通読</p> <p>12月4日(土) 公開シンポジウム(オンライン) 参加 「サイエンス、キリスト教、そして良心」(主催：同志社大学 理工学部、神学部、良心学研究センター)</p> <p>12月：経過報告(Zoom) および中間レポートの提出</p> <p>1月8日(土)：第2回学習(Zoom) グループワークの報告とディスカッション</p> <p>※ このセッションは、2期生・3期生が合同で活動します。 ※ 活動はオンラインで行うことを前提としますが、状況に応じて対面での講義や議論を行う可能性があります。 ※ 第1回および第2回学習の日時は、10月2日の概要説明時に調整の上、決定します。</p>		
活動のねらい	<p>□活動のねらい</p> <p>同志社大学の社会学部は 2005 年に文学部社会学科が改組再編されて誕生しましたが、その社会福祉学科のルーツは 1931 年に神学部 に設置された社会事業学専攻にあります。このような例とは異なり、 理工学部と神学部の間には歴史的な結びつきがあるとは想像できない かも知れません。事実、理工学部の前身である同志社工業学校は、 第二次世界大戦中に文部省から発令された「教育ニ関スル戦時非常 措置方策」に応じて開校されたもので、キリスト教主義の学校では ありませんでした。しかし、同志社英学校では数学や究理学(物理 学)など自然科学系の科目が教えられており、ハリス理化学校の設 立に際してはキリスト教に基づく技術者の養成が唱えられました。 新島襄にとって科学と宗教は一続きのものだったようです。</p> <p>実は「科学者 (scientist)」という言葉が使われるようになった のは 19 世紀の中頃であり、18 世紀以前のガリレオ・ガリレイやア イザック・ニュートンは自然神学の徒として神が創造した自然界を 探究し、そこに神の意思や計画を読み取ろうとしました。その後、 自然についての知識が人間の利益や進歩のために利用されるよう になり、さらに科学と技術の結びつきが強くなって科学と宗教が切り 離されたのですが、元来、自然の探求と信仰の心には強い繋がりが あったのです。</p> <p>課題図書『科学者はなぜ神を信じるのか コペルニクスからホーキ ングまで』には、宇宙論を研究する現代の物理学者にも神が創造し た世界を知りたいという思いが受け継がれていることが描かれてい ます。宇宙の成り立ちに限らず、地球環境や自然災害なども人間の 意のままに操れるものではなく、そこに人の力が及ばない領域や現 象が存在することは確かです。キリスト教の神でなくても「人知を</p>		

	<p>越えた何者か」の存在を意識することは、自然保護や環境問題への対処など、自然のなかの人間のあり方にも影響を及ぼします。このプログラムでは、西欧の科学思想の変遷と合わせ新島襄の言葉や同志社の歴史に触れながら「人間にとって科学とは何か」を考え、さらに「人間と自然との関係」について議論してみたいと思います。</p>
<p>活動の流れ</p>	<p>□活動の流れ</p> <p>(1) 概要説明：10月2日（土）3または4講時 [90分程度] 活動のねらいと活動計画の説明</p> <p>(2) 課題図書1の通読：10月 課題図書『科学者はなぜ神を信じるのか コペルニクスからホーキングまで』を読み、人間と自然との関係や現代の我々が直面している問題について、グループまたは全体で議論したい話題を抽出する。その内容を事前課題のレポートとして報告する。</p> <p>(3) 第1回学習：11月6日（土）午後 [90分×2] 「科学技術の歴史と自然観の変遷」および「新島襄と自然科学」についての講義を行う。合わせて、各自が抽出した課題を整理し、今後の活動計画を検討する。</p> <p>(4) 課題図書2の通読：11月 課題図書『科学史・科学哲学入門』および参考図書の内容を踏まえ、各自の課題を検討する。</p> <p>(5) 公開シンポジウム：12月4日（土）10:00～12:00 公開シンポジウム「サイエンス、キリスト教、そして良心」 講師：有賀誠一（ありが せいいち） 1939年京都に生まれる。同志社大学工学部卒業。日本、ドイツ、カナダでプラズマ物理学・核融合研究者（理学博士）、心理カウンセラー（心理学博士）、カナダ合同教会の牧師またチャプレンとして働き、カナダで隠退。地元のオーケストラの首席フルーティストとしての活動は続けている。 主催：同志社大学 理工学部、神学部、良心学研究センター</p> <p>(6) グループ・ワーク：12月 1期生と2期生、所属学部をまたいだ数名のグループ、あるいは個人別に、課題の検討と報告の準備を進める。随時、担当者への経過報告と意見交換の場（Zoom）を設ける。中間報告のレポートを担当者に提出する。</p> <p>(7) 第2回学習：2022年1月8日（土）[90分×2] 中間レポートをもとに発表と議論を行う。</p> <p>□事前課題 上記（2）に示したように、課題図書1の内容をもとに、人間と自然との関係の歴史、あるいは現代の我々が直面している問題について、さらに議論を行いたい話題を抽出し、A4サイズ、1枚のレポートにその概要を説明する。10月30日（土）までに事務局に提出する。</p> <p>□事後課題 上記（7）の報告と議論を踏まえて中間レポートを改定し、2022年2月28日（月）までに事務局に提出する。様式、枚数等の要領は、担当教員から第1回および第2回学習時に説明する。</p>

課題図書1	『科学者はなぜ神を信じるのか コペルニクスからホーキングまで』
図書情報1	三田 一郎（さんだ いちろう）著、講談社ブルーバックス、2018年、ISBN: 978-4-06-512050-7
課題図書2	『科学史・科学哲学入門』
図書情報2	村上 陽一郎（むらかみ よういちろう）著、講談社学術文庫、2021年、ISBN: 978-4-06-522839-5
参考図書	<p>隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』星海社新書、2018年（2021年度「合宿で鍛える知的基礎体力」課題図書）</p> <p>良心学研究センター（編）『新島襄 365』同志社大学良心学研究センター、2019年（2021年度「合宿で鍛える知的基礎体力」参考図書）</p> <p>大河内直彦『チェンジング・ブルー 気候変動の謎に迫る』岩波現代文庫、2015年（2020年度「読書から始まる知の探求」課題図書）</p> <p>Spencer R. Weart “The Discovery of Global Warming: Revised and Expanded Edition” Harvard University Press, 2008（2020年度「読書から始まる知の探求」課題図書）</p>